

14年5月13日(火)～17日(土) パリ・国立シャイヨー劇場

野田秀樹「THE BEE」English Version ヨーロッパツアー 2014 in パリ

原作:筒井康隆 ～「峯りあい」(新潮社)より～

共同脚本:野田秀樹&コリン・ティーバン

演出:野田秀樹

出演:グリーン・プリチャード、ペトラ・マッシー、デヴィッド・チャールズ、野田秀樹

「THE BEE」English Version ヨーロッパツアー 2014

5月13日(火)～17日(土) PARIS (FRANCE) パリ・国立シャイヨー劇場

5月27日(火)、28日(水) LUXEMBOURG (LUXEMBOURG) ルクセンブルク市立劇場

6月2日(月)～4日(水) RECKLINGHAUSEN (GERMANY) ルール・フェスティバル

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 助成:国際交流基金 制作協力:NODA-MAP



「THE BEE」English Version ヨーロッパツアー 2014 パリ・国立シャイヨー劇場 フランス初演
左:グリーン・プリチャード 中央:野田秀樹 右:ペトラ・マッシー

「支配者」を脅えさせる、蜂とは? 暴力と人間の関係を問う『THE BEE』に、パリの観客も驚嘆

2014年5月17日の晴れた午後、野田秀樹演出『THE BEE』英語版のパリ公演最終回を見るため、エッフェル塔に近い国立シャイヨー劇場の扉を開けた。広い大理石階段を下りて特設会場に向かう間に、期待がふくらむ。2013年初夏のシビウ国際演劇祭で見た本作の高い完成度を築いたキャストが、今回は変わるのだ。井戸役のキャサリン・ハンターと百々山警部役のマルチェロ・マーニが、別の俳優に交代。そして、英語版では小古呂の妻役を担ってきた野田が「平凡な会社員から非道な犯罪者と化す井戸」を演じる新ヴァージョンは、どう変貌を遂げたのか?

開演後まもなく、光の演出に驚く。パリの長い日照時間をいかし、窓から陽がさすなかで芝居は始まった。やがて、家路を歩む井戸が「自宅に妻子を人質にして、脱獄囚の小古呂が立てこもった」と知ったとたん、会場は暗くなる——日常から別世界にさらわれた井戸の衝撃に、観客を共振させる効果が生まれた。新メンバーを加えた四人の俳優は、暴力による支配の構造を細やかに表現。小古呂の妻

役のペトラ・マッシーの意志のない人形に似たうつろな瞳と、百々山警部役のデヴィッド・チャールズの傲慢な態度は、弱者を切り捨てる冷たい社会も感じさせた。一段と深化した人物の解釈に関しては、終演後に聞いた野田の言葉を引こう。

原作にはない人質の描写について、小古呂の妻を演じた経験を振り返りながら野田は語る。「暴力を受ける側の人間が逃げる意欲を失うまで支配されてしまう感覚を、ペトラに伝えました。子どもを助けられない自分の非力さに疲れきり、無表情に陥った状態を表してほしかった。何故こんなひどい状況で暮らしながら、無表情でいられるのか、とお客さんが疑問を抱くように。悲惨な状況に慣れざるを得ない人間が生きている事実を、観客に理解してもらうことも大切ですから」

憎むべき井戸の食事を作り、息子の指を封筒にくるむマッシーの姿から、独裁者に抑圧される人々が透ける。戦時下の残虐行為についても、野田は思索を続けてきた。

「キャサリンたちと稽古をはじめた当時から、戦場における人間の行動について議論を重ねました。ふだんは優しい人間が戦場の兵士になると、急にむごたらしいことをしでかす。そのメカニズムは決して特殊な人間だけのものではないんですね。井戸に暴力を習慣にするスイッチが入ったとき、被害者である女性と子どもは、残酷な環境に鈍化せざるを得ない戦場の人のように暮らすしかなかった」

野田の演じる井戸は小古呂の家で君臨していく過程で、怪物性を帯びる。子どもをいたわると思えば、小さな手に刃物を当て、蜂の羽音に脅え狂騒的に踊る。瞬時に切り替わる振幅の大きい演技は、観客を爆笑させ、また凍りつかせる。ハンターが男性役で野田が女性役というジェンダー交換の妙味に代わり、井戸の内面が強く迫ってきた。

悲惨な末路をたどった人物を装置の紙が包む幕切れから、一瞬の静寂の後、力強い拍手が響く。シャイヨー劇場の芸術監督は、舞踊家としても活躍するディディエ・デシャン。本作の印象を尋ねると、「秀樹は『優れたダンサー』とも呼べる。これほど豊かな動きの語彙をもつ俳優は稀だ。鉛筆などの日用品を小道具にいかす方法も、機知に富んでいるね。東京で感銘を受けた秀樹作・演出の『エッグ』を来年、シャイヨーに招聘できて嬉しいよ!」

人間の本质を問う舞台の帰路、タイトルの「蜂」が脳裏を飛び交う。原作には登場しない蜂について野田は、「室内の人質を武器を使わず心理的に支配できる井戸が、コントロールできないもの」と述べた。英語でBEと同音の名をもつ虫は、人智を超えた領域もイメージさせる。もしや「蜂」とは良心や情を忘れ果ててもなお、魂を震わす「畏怖の念」の象徴ではないか……。教会が多いヨーロッパの古都で『THE BEE』を見せいか、「蜂」は神に近い存在とも思えるのであった。

取材・文:桂 真菜(舞踊・演劇評論家)



左:デヴィッド・チャールズ 中央:グリーン・プリチャード 右:野田秀樹

芸劇+トーク 朗読「東京」シアターイースト

第1回

1月15日(水) 柳家小さん作『咄も剣も自然体』
演出:千葉雅子 出演:松重豊、千葉雅子

1月16日(木) スエヒロケイスケ作『カゲロウの黒い犬～北赤羽サイボーグ事件～』
演出:寺十吾 出演:有蘭芳記、近藤芳正

1月17日(金) 平田オリザ作『東京ノート』
演出:江本純子 出演:菅原永二、佐久間麻由

第2回

2月7日(金) 林芙美子作『骨』 出演:山崎樹範、中村 中

2月8日(土) 松本 隆作『微熱少年』 出演:加治将樹、石橋穂乃香

2月9日(日) 三島由紀夫作『百万円煎餅』 出演:森岡 龍、黒川芽衣
演出:瀬田なつき

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/豊島区
助成:平成25年度 文化庁 地域発・文化芸術創造発信イニシアティブ

企画監修:川本三郎



『咄も剣も自然体』



『骨』



『カゲロウの黒い犬～北赤羽サイボーグ事件～』



『微熱少年』



『東京ノート』



『百万円煎餅』

「芸劇+トーク」と冠したトークを組み込んだリーディングのシリーズとして、「自作自演」がすでに9回を数えているが、2014年1月、新たに「朗読『東京』」がスタートした。「自作自演」が劇作家同士、または劇作家と小説家の顔合わせで自作のリーディングと対談を行うのに対し、「朗読『東京』」では東京を舞台にした小説や戯曲、エッセイを俳優が朗読し、文芸・映画から都市文化まで幅広い見識をもつ評論家 川本三郎氏とトークを行う。実力派から新進まで、多彩な演出家と出演者による作品を日替わりで観ることができるというのも魅力のひとつで、計6日間で6作品を上演した。

1月に行われた第1回の3組は、小劇場からテレビまでのフィールドで活躍する実力派ぞろい。この企画最初の上演となる松重豊×千葉雅子『咄も剣も自然体』は、酒を酌み交わしながら朗読するという設定で、まさに江戸下町情緒を感じさせる大人の組み合わせ。有蘭

芳記×近藤芳正『カゲロウの黒い犬』は、寺十が自らの劇団で上演した作品をリーディングとして再演出。引きこもりの長男と無職の次男を実力派の2人が演じ、殺人をめぐるシュールなやりとりから、現代東京のシニカルなやせなさが漂う。菅原永二×佐久間麻由『東京ノート』は、性別も年齢も異なる10人以上の登場人物を2人で演じ分け、平田作品の空気感を巧みに表現した江本の手腕が光った。

対して2月の第2回は、新進の映画監督 瀬田なつきが3日間3作品の演出を担当。これが舞台初演出となった。舞台奥の左右にJR中央線とゆりかもめの車窓の風景を映写し、電車が終点に到着するとともに朗読が終わるという仕掛け。戦後や60年代の東京を舞台にした作品の朗読を聞きながら、現代の風景を見ることで、観客は不思議な浮遊感を体験した。山崎樹範×中村 中『骨』は、終戦直後の人々の哀しくも凶太い生きざまを見事に表現。加治将樹×石橋穂乃香『微熱少年』は、1966年

のビートルズ来日を背景にした青春物語を20代の2人が好演。森岡 龍×黒川芽衣『百万円煎餅』は、今はない浅草の“新世界ビル”を舞台に若夫婦の生々しい質感を表現した三島作品を時にクールに、時にセクシーに表現した。

いずれも朗読のあとは、川本三郎氏をナビゲーターとして、俳優や演出家たちの東京トークが繰り広げられた。何といっても聞きどころは、川本氏の幅広い知見。下町と山の手、歓楽街や遊び場、はては鉄道に至るまで、古今の東京の風景や風俗を語ってやむことがなく、出演者までもが観客と同じ気持ちになって質問してしまうほど。朗読の余韻を感じながらの楽しいひとときになった。

朗読とトークをとおして、東京という多彩な貌をもつ街の魅力を再発見し、共有する時間。観客からも「初めて朗読を見たが、想像以上に楽しめた」「トークが面白くて最高」と好評で、シリーズとして、手ごたえを感じられる出発となった。

文:編集部

障害をお持ちの方への鑑賞サポート

東京芸術劇場では、目や耳が不自由な方に舞台を一層楽しんでいただけるよう、一部の公演で下記サービス(無料・要事前申込)を実施しています。対象公演は劇場HP等で随時ご案内いたします。障害者割引と併せてぜひご利用ください。

<http://www.geigeki.jp/access/support.html> で検索

● 視覚障害者のための舞台説明会

目の不自由なお客様に、舞台装置や登場人物などについて開演前にご説明いたします。

● 聴覚障害者のためのポータブル字幕機提供サービス

耳の不自由なお客様に、台詞や音の情報をお手元でご覧いただけるポータブル字幕機をお貸しします。

※障害者手帳をお持ちの方が対象となります。 ※障害者割引は公演により設定のない場合もございます。

芸劇 BUZZ 読者の皆様へ

🎵 ご意見・ご感想をお送りください! 🎵

いつも東京芸術劇場・季刊広報誌「芸劇BUZZ」をお読みいただき、誠にありがとうございます。劇場や本誌について、皆様からのご意見、ご感想をお寄せください。そのほか、「芸劇BUZZ」の入手場所をお書き添えいただき、下記送付先までご郵送ください。お寄せいただいたご意見・ご感想は、今後の参考にさせていただきます。

送付先: 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-8-1
東京芸術劇場「芸劇BUZZ・読者の声」係 へ
尚、お受け取りした郵便物は返却致しませんので、ご了承ください。